

A

January

京都教師塾通信
No.6

令和3年1月9日

学 び の 広 場

京都市教育委員会 教員養成支援室

第15期

「京都教師塾」

専門講座が始まりました。それぞれの校種・職種で求められる資質や実践的指導力について学ぶ良い機会です。
1回目は小学校・中学校の学級経営の専門講座でした。皆さんはどのようなことを学び考えたのでしょうか。

中学校における学級経営～協働活動の視点から～ 講師 深尾 彰 主任指導主事



私が今日の講義で学んだことは、学級経営の大変さである。私が中学生の時には、学校行事を利用して力をつけるという視点から考えたことがなく、クラス内の絆が深まり、楽しく終わるということはあるが、目標立てから評価改善までの一連の流れがあるように、裏ではこれだけ複雑なものだとは思ってもしなかった。学級経営において、あくまでも生徒の主体性が中心であっても、その中での指導や支援、雰囲気作りなど、担任の役目というのも大切であるということが分かった。クラス内での組織づくりでは、班活動や委員会、日直などがあるように、生徒一人一人に役割を振り分けることで、生徒はどこかしらで活躍でき、誰でも主役になれると思った。生徒の自己有用感、学級での帰属意識を育むためにも、一人一役というのは大切であると思う。また、PDCA サイクルはとても重要だと思った。何事に関しても目標を立て、それを実行し、ただ終わるのではなく、評価、分析を取り入れることで次への改善点を見つけ学びを深めていくという流れは、現場においてとても重要なことだと思う。一貫した指導を心がけながら実行することも大切だ。

校種・職種別の講義は初めてだったが、分散会でも共感する意見が多く出て、面白かった。最も多く出た意見としては、学級の雰囲気や環境づくりが担任として大切であるということだ。難しいことではあるが、目標を明確にして、少しずつでも前進できる取組が鍵となるのではないかと感じた。

学級経営は私が思っていたよりもずっと大変であること、担任は生徒の主体性を尊重しながらも常にアンテナを張って支援し続けなければならないこと、悩みや不安をキャッチして見逃さないことが役割であるということが分かった。今後の学級経営においてたくさん活かせることが多いと思うので、しっかり自分のものにしていきたい。

目標を立てるためには、「こんな学級にしたい。」というビジョンを明確にしたいものではありますが、経験の少ない最初の内は、なかなか難しいものです。4月当初の学活で、なるべく具体的に「こんな学級にしたい（...はいやだ）」ということをみんなで話し合い、学級目標（ビジョン）を共有し合い、ではそのためには、どんなことに努めるべきかという行動目標を決めていくのが一般的なのですが、実現できているか、いないのかが判断できる様な具体性をもたせておかないと、年度途中の振り返りにも使えませんから、要注意です。

小学校における学級経営～協働活動の視点から～ 講師 宮下 佐知子 主任指導主事



今回の講義を受けて、学級経営にとって大切な「安心・安全」「居心地の良さ」「高め合う」ことは保健室経営をしていく上でも大切であると感じた。私は養護教諭を目指して学級に関わる機会はありません。しかし、保健室に来た子ども達により良い支援を行うには、学級と同じような雰囲気づくりが大切だと考えた。学級の中で子ども一人一人の力を伸ばすために、規律ある雰囲気とあたたかい雰囲気が重要であると知った。保健室経営においても保健室登校をしている子ども達に対して何をしてもよいとするのではなく、学級の中と同じルールを設けることが必要だと感じた。ルールを設けることで、保健室にいたとしても学校という小さな社会の一員である意識がもてたり、教室復帰することの助けになったりすると考えた。

分散会の話合いの中で学級目標の必要性について意見が出た。班の中で実際に自分が学生の頃、自分達が立てた学級目標を守れずクラスの中で学級目標について考え直した経験をした人がいた。私の中で学級目標は一年の初めに決めて何となく忘れていくものという意識があった。しかしその話を聞いて、学級目標は子ども達が自分達で自分達の行いが正しかったか気づくことができるきっかけになると感じた。大人に言われたから正しい行いをするのではなく、自分達で気づくことでより良い学級が作られていくと感じた。

養護教諭の仕事や役割は本当に多いです。各担任や子ども、保護者、そして多くの教職員、学校医など関係を作っていくことがとても大切です。その関係作りも子どもだけでなくいろいろな大人であるために悩んだり迷ったりもあると思います。けれど、管理職との報・連・相をしっかりと行い、不安にならないようにしてくださいね。この先も困った時や不安な時はいつでも相談してくださいね。私も出会った養護教諭には本当にいつも協力してもらい助けてもらいました。

学級目標とはそうあるべきだと思います。そのためにも、年度当初に学級作りの思いや願いを子ども達に届くように語ります。それを受けて子ども達は自分達の言葉で、もちろん教師の思いもしっかりと組み込んで学級目標を作ります。そして、それからがとても大切です、教師による子ども達への学級目標の意識づけです。何かの度に学級目標に振り返る習慣です。そして、子ども達自身に考えさせる機会を作っていきます。子ども達が自分達で振り返ることができるまでは、教師が根気よく振り返りを促していきます。養護教諭としての専門性を高めながら、学校全体についても考えようとしていて、とても意識が高いです。

中学校

分散会の様子



小学校



子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で

「子どもと地域の絆」を実践しよう！



京都はくくみ章